

白山魅力向上・発信計画検討会

第2回資料

【目次】

1. 計画の趣旨	1
2. 計画期間、現状	2
3. 指標	3
4. 推進体制	4
5. 課題と取組の方向性	5
6. 取組の方向性	
[方向性1] 登山者の安全性・利便性の向上	6
[方向性2] 白山国立公園施設の魅力の向上	8
[方向性3] あらゆる世代が楽しむことのできる魅力の向上	9
[方向性4] 魅力の発信の強化	11
(参考)	
白山国立公園(石川県側)	12

1. 計画の趣旨

計画の趣旨

白山は日本百名山のひとつとして数えられる自然豊かな名山で、毎年多くの登山者が訪れる地域であり、山岳信仰の山として富士山、立山と並び「日本三霊山」のひとつとして数えられている。

昭和37年に白山国立公園に認定された自然の宝庫で、また白山を中心とした雄大な峡谷や滝などの自然、歴史・文化、食など多くの魅力を有し、さらに令和5年に白山手取川ジオパークがユネスコの世界ジオパークに認定された。

このような白山の魅力を県内外の多くの方に体験してもらい、白山の豊かな自然、歴史・文化、食などへの理解や関心を高めるとともに、地域資源としての価値を向上させ、まずは白山国立公園の保護と利用の推進に取り組み、ひいては地域の活性化につなげることが重要である。

このため、国（環境省）、県、市、関係団体が連携し、白山の魅力向上・発信するためのプランを策定する。

2. 計画期間、現状

計画期間

10年間（計画策定後10年）

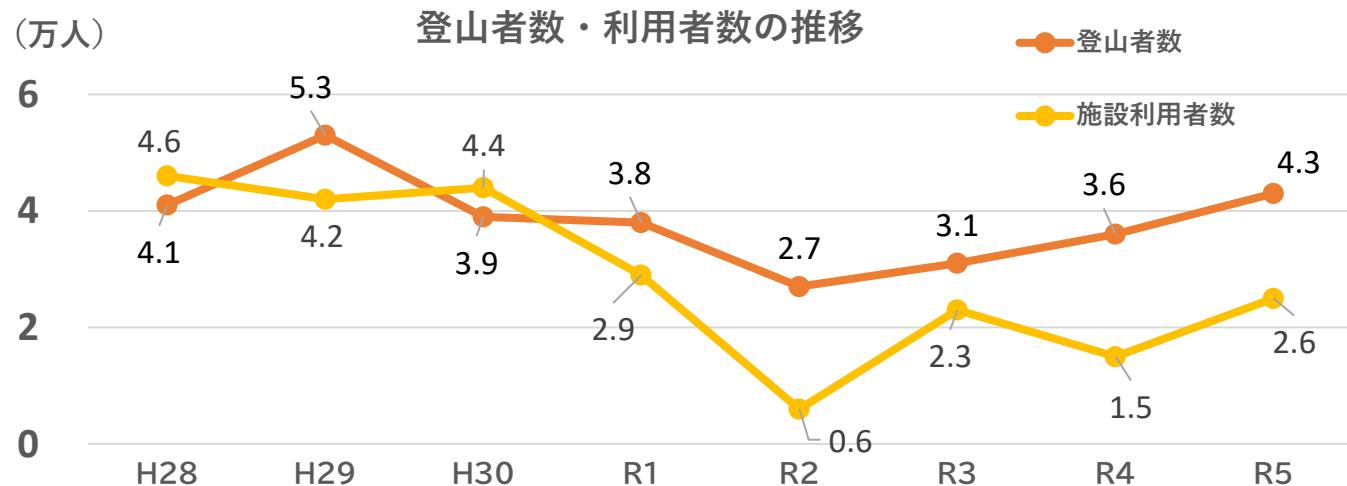
現状

(1) 登山者

- ・登山者数は、白山開山1300年の平成29年に過去最高の5.3万人を記録し、その後、コロナ禍により登山者数は減少
- ・現在、室堂や南竜の宿泊施設におけるコロナ禍対応の間仕切り設置（良好な空間創出で継続中）による収容人員3割減もあるが、徐々にコロナ禍前の水準に回復
- ・本県側の主要登山道のうち、砂防新道・観光新道の利用が約9割
- ・コロナ禍以後、宿泊者数の割合が減少し、日帰り登山者の割合が増加

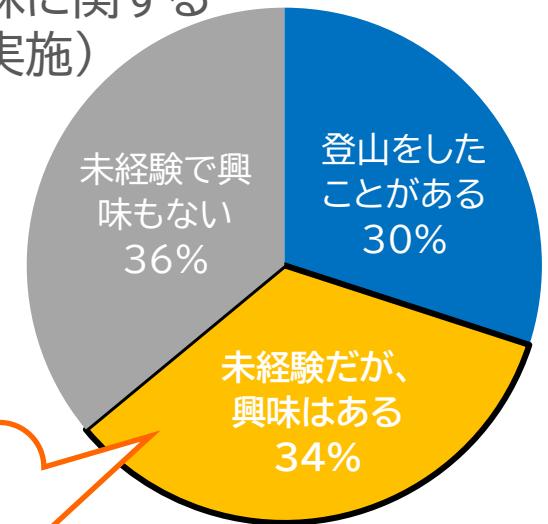
(2) 白山国立公園施設利用者

- ・白山白川郷ホワイトロードの崩落やコロナ禍により、近年、利用者数が低調な傾向



(3) 県民アンケート

白山登山の経験・興味に関する県民アンケート(R5実施)



半数近くが、ハードルとなっている要因として、「体力・身体への不安」と回答

○登山者の属性

- ・居住地：県内（約3割）
- ・年代：40代以上が75%以上

指標の考え方

○登山者数 計画策定後10年 5万人

検討会で出された混雑への懸念の意見も踏まえ、
登山者数は、過去ピークの約5万人の維持を目指す（H29：5.3万人 R5：4.3万人）

⇒意見：登山者を倍増させると、駐車場や二次交通(シャトルバス)が問題
白山は既にオーバーツーリズムという声もあり、登山者の分散化などが必要

○白山国立公園施設利用者数 計画策定後10年 5万人

一方で、登山者数だけではなく、麓も含めた取組が重要との意見も踏まえ、
裾野の国・県・市の公園施設の利用者数5万人を目指す（H26：4.9万人 R5：2.6万人）

⇒公園施設：中宮展示館、白山国立公園センター、ブナオ山観察舎、白山砂防科学館 等

**あわせて
10万人**

4. 推進体制

推進体制

計画は、国（環境省）、県、白山市、関係団体が連携して実施し、毎年、事業の進捗確認を行い着実に推進する。

環境省：公園管理計画に基づき、規制や保護対策を行うとともに、利用施設の整備・管理を実施

県・市等が行う利用施設の整備に対する支援を行うとともに、公園全体の利用を促進

石川県：白山国立公園の利用や情報案内の拠点となる施設の管理を行うとともに、自然環境を保護しながら、利用を推進

白山市：県と連携し、白山手取川ユネスコ世界ジオパークやユネスコエコパークを活用した環境教育、環境学習の推進や交通対策、観光の取組みを推進

関係団体：行政と連携し、観光誘客、環境保全、登山道の維持管理、ガイド人材の育成等、各団体の設置目的に沿った取組みを推進

5. 課題と取組の方向性

取組の方向性

登山と周辺の白山国立公園施設の魅力の向上を2本柱に、共通事項として幅広い層に向けた取組や効果的な情報発信を行う

課題

1 登山者の安全性・利便性

- ① ハイシーズンのシャトルバスや駐車場が混雑し、平準化が必要
- ② 観光新道が初心者にとって難しいなど、登山ルートが分かりづらいとの声
- ③ 昭和40～50年代の建物が多く、老朽化対策が必要
- ④ 白山は活火山で火山防災の備えが必要

2本柱

【方向性1】

登山者の安全性・利便性の向上

2 白山国立公園施設の利用状況

- ① 白山白川郷ホワイトロードの崩落やコロナ禍により、利用者数が低調な傾向
- ② 世界ジオパーク認定などを踏まえた展示の充実や活用促進が必要

【方向性2】

白山国立公園施設の魅力の向上

3 共通

- ① 登山未経験者で興味がある県民が、体力に自信がなく断念している傾向
- ② 登山客は40代以上が75%以上占めるため、若者への働きかけが必要
- ③ 登山情報、施設情報、観光スポット紹介などの情報が分散

共通事項

【方向性3】

あらゆる世代が楽しむことのできる魅力の向上

【方向性4】

魅力の発信・強化

6. 取組の方向性

〔方向性1〕 登山者の安全性・利便性の向上

＜現状・課題＞

- ・ハイシーズンにおけるシャトルバスや駐車場の混雑が課題
 - ・登山道についても、砂防新道に登山者が集中する一方、次いで利用者数の多い観光新道については、急な段差が多く、体力に自信のない登山者にとっては厳しいといった声や危険箇所に関する情報発信が不十分
- 交通情報や登山ルートに関する情報提供の充実をはじめ、登山時期やルートの分散化・平準化の促進につながる取組が必要
- ・昭和40～50年代の建物が多く、老朽化対策が必要
 - ・白山は活火山で火山防災の備えが必要
- 登山者の安全性・利便性の向上に向けては、通信環境の改善のほか、老朽化が進む施設の改修などのハード整備についても、計画的に対応していくことが必要



＜取組の方向性・方策＞

ア 交通対策の充実

① 交通情報の発信の強化

- ・ハイシーズンの登山道や駐車場の混雑緩和や交通円滑化に向けた情報発信の強化。

② 関係機関における今後の二次交通のあり方の検討

- ・登山道へのアクセス改善につながる将来的な二次交通の充実に向けて、関係機関において、今後の二次交通のあり方を検討。



6. 取組の方向性

【方向性2】白山国立公園施設の魅力の向上

＜現状・課題＞

- ・ 周辺の公園施設では、白山白川郷ホワイトロードの崩落やコロナ禍により、利用者数が低調な傾向
 - ・ 世界ジオパーク認定などを踏まえた展示の充実や自然体験や環境教育などの利用促進が必要
 - ・ 老朽化している施設の改修（更新）が必要
- 登山だけでなく、麓も含めた取組が重要であり、周辺の国・県・市の公園施設等の魅力の向上が必要

＜取組の方向性・方策＞

ア ジオパークや白山白川郷ホワイトロード等の魅力を活用した利用促進

① 魅力的なイベントの展開

- ・ 企画展や白山白川郷ホワイトロードと連携した企画の実施など、魅力的なイベントの展開。

② 環境教育・環境学習の場としての利用推進

- ・ いしかわ自然学校の自然体験プログラム強化。

イ 中宮展示館等の施設改修の検討

① 老朽化した展示物の計画的な更新

- ・ 中宮展示館や白山国立公園センター等の施設改修による魅力向上の検討。



6. 取組の方向性

【方向性3】あらゆる世代が楽しむことのできる魅力の向上

<現状・課題>

- ・ 白山登山は未経験だが興味ある県民の半数近くが、登山のハードルとして「体力・身体への不安」を挙げている
- 初心者向けメニューを用意するなど、あらゆる世代が白山の自然に親しめる環境づくりが必要
- ・ 白山麓には、自然を活用したアクティビティ、歴史・文化、食、温泉など、多様な地域資源が存在
- ・ 世界ジオパーク認定や日本三霊山連携協定締結
- 自然を活かした環境教育・環境学習や、歴史・文化を活用した取組の充実が必要
- 白山の豊かな自然を保全していくことが必要

<取組の方向性・方策>

ア 白山の自然に親しむ裾野の拡大

① 初心者向け登山メニューの充実

- ・ 白山登山のハードル解消に向け、登山初心者向けの導入編としての低山ガイドツアーを実施。

② 登山以外の白山に親しむメニューの充実

- ・ 体力に自信のない人も白山の自然に親しむことができるようなイベントの実施。



6. 取組の方向性

〔方向性3〕あらゆる世代が楽しむことのできる魅力の向上

＜取組の方向性・方策＞

イ 豊かな自然環境の保全・継承

① 白山手取川ジオパークを活用した環境教育の推進

- ・ 白山市と連携したジオパーク環境教育・環境学習の実施（白山県民講座等）。
- ・ いしかわ自然学校の自然体験プログラム強化（再掲）。



② 白山の自然保護の推進

- ・ 外来植物の除去活動、ニホンジカの生息状況調査等。



ウ 多様な地域資源の活用

① 白山周辺の温泉や食・自然や日本三霊山等の歴史・文化を活用した魅力向上

- ・ 自然を活用したアクティビティ、歴史・文化、食、温泉など白山麓全体の地域資源と、白山登山を組み合わせた多様な魅力の発信。
- ・ 三霊山連携協定に基づき、富山県（立山）、静岡県（富士山）との相互連携により、歴史・文化をはじめとした多様な魅力の発信。



② 白山活動団体と連携した取り組みの推進

- ・ 魅力向上や発信の取組を拡充するため、地元団体・学生団体、NPOなどとの連携を検討。

③ 民間と連携した魅力向上

- ・ 民間との連携による新たな資源の掘り起こし。

6. 取組の方向性

[方向性4] 魅力の発信・強化

<現状・課題>

- ・ 白山に関する情報発信は、登山情報や施設情報の提供、観光スポットの紹介など、様々な情報が分散
→ 必要な情報が受け手に届きやすいよう白山に関する様々な情報にアクセスしやすくなるよう、情報発信の強化が必要
- ・ 白山振興に取り組む団体等が複数存在するものの、連携が不足
→ 各団体等の取組についても、連携を強化することにより、周遊性を高めるとともに、一体的に発信できるような工夫を進めていくことが必要

<取組の方向性・方策>

ア 白山登山を核とした分かりやすい情報の発信

① 白山に関する情報の一元化

- ・ 各サイトに分散している登山ルートを紹介や交通情報、施設情報、白山の歴史・文化や観光スポットなどの様々な情報を分かりやすく発信。

イ 魅力的なコンテンツの制作による発信力の強化

① SNSを活用した白山の多様な魅力の発信

- ・ SNSを活用し、白山の美しい景色や植物、動物など多様な魅力を写真やショート動画により発信。

ウ ターゲットに応じた情報の発信

① ファミリー層やインバウンドなど国内外も含め、ターゲットに応じた情報発信を検討

- ・ ターゲットに応じた白山登山の魅力伝えるコンテンツ制作の検討。



(参考) 白山国立公園(石川県側)

位置図

